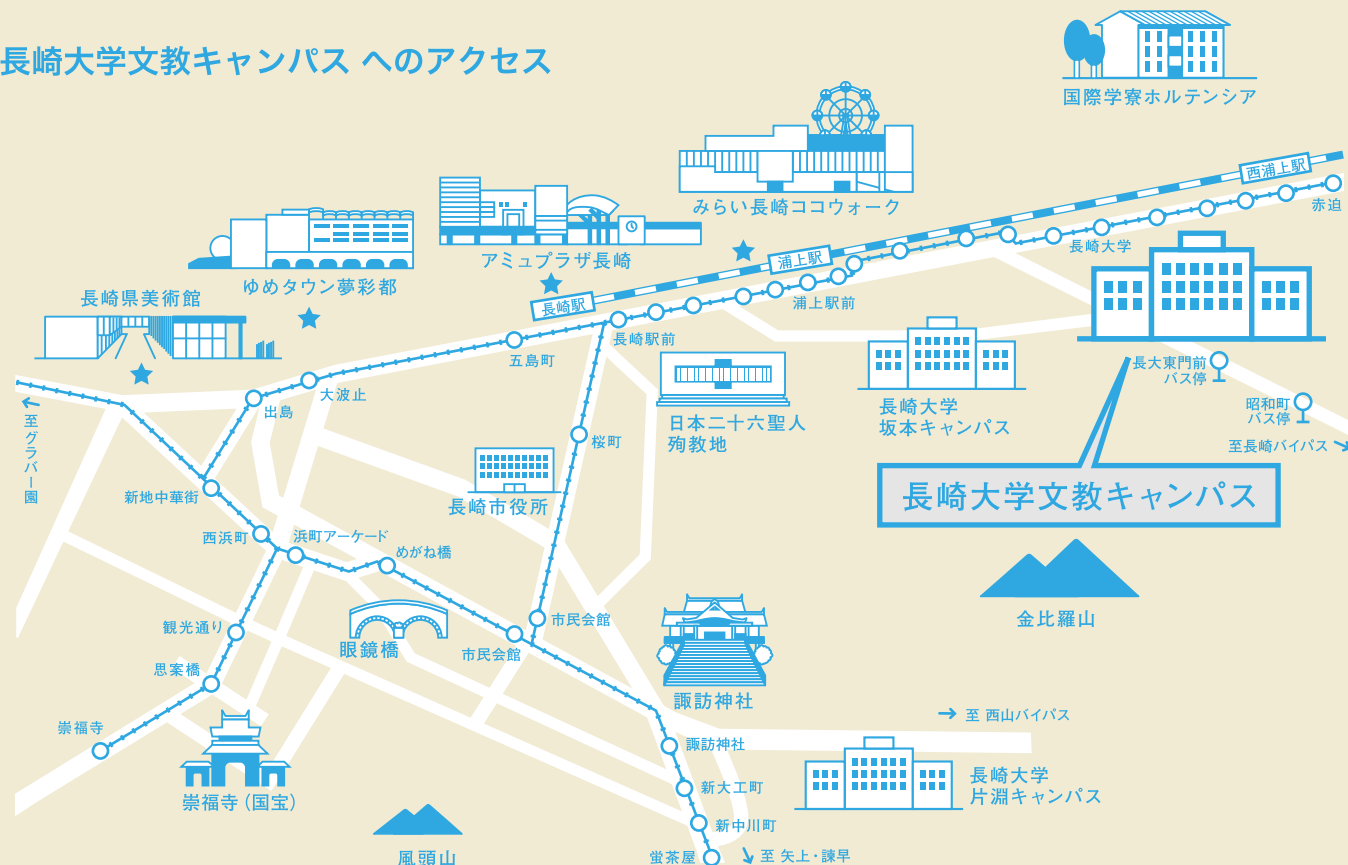


長崎大学文教キャンパス へのアクセス



JRをご利用の場合

JR長崎本線「浦上駅」下車、その後、以下の路面電車もしくはバス利用

■浦上駅から路面電車をご利用の場合

「浦上駅前」から「赤迫(あかさこ)」行き乗車
「長崎大学」で下車(所要時間/約10分) 料金120円

■浦上駅からバスをご利用の場合

「浦上駅前」から長崎バス1番系統「溝川」・「上床」・「上横尾」行き乗車
「長崎大学前」で下車(所要時間/約10分) 料金150円



高速バスをご利用の場合

各地より浦上経由長崎方面行きバスに乗車し、「昭和町(しょうわまち)」で下車、その後、徒歩で長崎大学東門まで約15分あるいは長崎大学正門まで約20分



航空機をご利用の場合

長崎空港(大村市)4番乗り場から空港リムジンバス乗車
片道900円、往復1,600円

■長崎県営バス「試験場前・諫早インター・浦上経由 長崎駅前」行き乗車
「長大東門前(ちょうだいひがしもんまえ)」で下車(所要時間/約40分)

■長崎県営バス「試験場前・諫早インター・浦上経由 住吉経由 長崎駅前」行き乗車
「長崎大学前」で下車(所要時間/約45分)



長崎大学文教地区事務部学務課(多文化社会学部担当)
〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 TEL.095-819-2030
Mail: hss_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学
多文化社会学部
スマホサイトへ



NAGASAKI UNIVERSITY

長崎大学多文化社会学部

School of Global Humanities and
Social Sciences (SGHSS)



地域の視点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考える、人間性豊かな人材を育成します。

長崎大学多文化社会学部では、語学・社会科学・人文学からなる

多彩なカリキュラム、海外留学やフィールドワークなど積極的な学びの制度により

豊かな人間性を持つ人文社会系グローバル人材を育成します。

世界や他者との紐帯そのものである「ことばの力」、主体的に世界を観察し

体験的に情報を得る「調べる力」、調べた材料をもとに理解を深める「知識・考える力」、

そして社会へ働きかけ、変化を起こす「行動力」を身につけ、

卒業後には長崎から世界へと舞台を移し、新しい時代や価値、文化を創造しましょう。

【教育理念・教育目標】

多文化社会学部では、「グローバル化時代の多文化社会において必要とされる人間力と社会力」を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担い、たくましく生き抜く力を有するグローバル人材を世界に送り出すことを教育理念としています。

具体的には、人文社会学部の学士課程教育における専門性を担保しつつ、グローバル人材の基盤的資質としての高度な外国語の運用能力・コミュニケーション能力とジェネリックスキルの涵養に重点的に取り組みます。すなわち人文社会系諸分野を「多文化社会」の観点から再編・統合することで、政治・法律・経済等の社会科学系の知識と考え方と、世界の各地域の多様な社会・文化・歴史・宗教を理解できる人文学系の知識と考え方とをあわせ持つ人材を育成し、言語的・文化的背景を異とする人々と協働して、国際社会の様々な課題の解決に向けて行動できる人材を世界に送り出すことを教育目標としています。



学部長 葉柳和則

1963年生まれ。大阪大学人間科学部卒業、大阪大学大学院文学研究科修了(博士(文学))。スイス政府給費留学生(チューリヒ大学)、長崎大学環境科学部教授を経て、2014年より長崎大学多文化社会学部教授。

専門は、文化表象論、ナラトロジー。主たるテーマは、多言語国家スイスのナショナル・イメージと知識人・芸術家・ジャーナリストの活動との関係。2010年からは、ヨーロッパ研究で得た知見を踏まえて、長崎の都市イメージに関するメディア論・表象論的研究を遂行中。

自明性の外部へ

初めての街に足を踏み入れるときの胸の高鳴り。目にする通りや、耳にする声は、異質で、不安をかきたてるものでありながら、他方でどこか懐かしいものであったり、心地よいものでもあったりします。旅をするとき、私たちは新しい出来事を経験しながら、同時に自分という存在の芯を再確認しているのです。

大学での学びが「知の旅」にたとえられるのは、単に未知の学問領域を探索するにとどまらず、それを通して自分という存在、あるいは自分と世界との関係についての認識を新たにするという側面があるからです。これは、とりわけ文系の学びにおいて大切です。みなさんはこれから、人間と人間が出会い、相互の関係性のなかで作り上げていくもの、すなわち社会とその文化について学んでいくわけですが、自分という主体をそこから切り離すことはできません。むしろ、「そういう自分はどうなんだ」、「自分だったらどうするだろう」という問いを常に立てることが、人間や社会について学びを確かなものにしていきます。

長崎大学多文化社会学部は、グローバル化する現代世界の中で、他者と協働し、リーダーやパートナーシップを発揮するための学びの場として2014年に開設されました。グローバリゼーションは、文字通り地上のあらゆる場所で、人間、商品、通貨、そして情報が一元的に移動・流通することを指向し、ローカルなもの、ニッチなものが持つ多様性とのあいだに緊張

と融和を生み出しています。このような状況のなかで、私たちは文化的背景を異にする人びとと、互いの強みを重ね合わせ、弱みを支え合いながら、生活を共にし、仕事を成し遂げていくことになります。多文化社会学部のカリキュラムが提供する「知の旅」は、このようなグローバル化時代を生きるための思考、知識、技法を身につける旅なのです。教室での勉強はもちろんのこと、学生寮での「共生」、英語カフェ、フィールドワーク、留学といった学生生活の様々な場面で、他者と出会い、ひるがえって自分を知るための学びが用意されています。

この「旅」は単なるパッケージツアーではありません。学年が進むにつれて、自分で「地図」を作り、自分で旅程を組み立てる場面が増えていきます。教員は「旅」の先達として助言を提供しますが、「旅」の主役はみなさん学生たちです。「旅」において大切なことは、途次において、人間や社会についての常識や思い込み、すなわち「あたりまえ」だと皆が信じていること、自分自身もまた自明だと思っていることを、新たな視点から見つめ直すという経験です。自明性の外部へと足を踏み入れたとき、世界と人間は別様の可能性を内包したものとしてみなさんの前に立ち現れてくることでしょう。つまるところ、これを経験することが多文化社会学部の学びの目的なのです。

Bon voyage!

Contents

身につけるべき4つの能力	02
特色ある5つのコース	03
語学力強化のためのプログラム	04
世界への扉を開く留学プログラム	05
多文化社会学部の学びのシステム	08

【各コースの紹介】

国際公共政策コース	10
社会動態コース	11
共生文化コース	12
言語コミュニケーションコース	13
オレンジ特別コース	14

「国際学寮ホルテンシア」のご案内	15
CAMPUS LIFE (年間スケジュール)	15
多文化社会学部のキャリア教育・就職支援システム	16
教員紹介	18
入試情報	20

多文化社会で活躍する グローバル人材であるために 身につけるべき4つの能力

多文化社会である現代において、国際的に活躍する人材となるために備えておくべき4つの能力。
それは「ことばの力」、「調べる力」、「知識・考える力」、「行動力」です。
多文化社会学部では、これら4つの力を総合的に養っていくことで確かな論理や知識を軸とし
さまざまな場面で臨機応変に行動し、社会貢献できる、グローバル人材の育成を目指します。

Language

ことばの力



「ことばの力」とは「高度の外国語運用能力とコミュニケーション能力」です。多文化社会学部では英語、中国語及びオランダ語を体系的に学ぶためのカリキュラムを設計しています。とりわけ英語については段階的な目標を設定するとともに、英語カフェなど授業外においても学ぶ機会を多数設定することで、多くの学習時間を確保しています。

【提供するカリキュラム】

◎英語モジュール

◎中国語モジュール

◎オランダ語モジュール

Knowledge

知識・考える力



「知識・考える力」は、すなわち「多文化状況と文化多様性の意義を理解できる力」のことです。世界の諸地域に生起する多文化社会の諸問題に関する基礎知識を習得するとともに、既存の人文社会系の学問分野をグローバル化時代の多文化社会という視点から俯瞰し、具体的な事例に即して実践的に学ぶことを目指します。

【提供するカリキュラム】

◎学部モジュール

◎基礎講義

◎専門講義

Research

調べる力



「調べる力」とは、多文化社会が抱える様々な課題や現象を対象として、多様な主体と協働・連携をしながら、自ら立てた問いを学術的に探究して発表する能力のことです。多文化社会学部ではデータや文献の収集と分析、課題の発見と整理、調査の企画や実行、といったスキルを身につけることを目指します。

【提供するカリキュラム】

◎リサーチ入門

◎リサーチ基礎

◎外国語文献講読

Action

行動力



「行動力」は、リーダーシップやパートナーシップ、あるいは実行力であり、教室での勉強だけでは身につけられません。多文化社会学部では全学生に短期留学を必須化するとともに、中期・長期の留学や海外でのフィールドワーク、インターンシップを推奨しています。

【提供するカリキュラム】

◎留学

◎フィールドワーク

◎インターンシップ

「ローカル」から「グローバル」を目指す 世界を学びのステージにする 特色ある5つのコース

国際社会が抱える様々な課題を分析する国際公共政策コース、人・モノの動きから世の中をとらえる社会動態コース、
多様な文化の理解から共生を考える共生文化コース、適切な言語運用の力を身につける言語コミュニケーションコース、
そして、オランダを切り口に現代の欧州を学ぶオランダ特別コースの5コースで構成されています。
自分が学びたいコースに進み、目標に向かってチャレンジしてください。

International Public Policy Program

国際公共政策コース

■紛争や軍縮、人権侵害、貧困や開発、法の支配、保健・衛生といった、国際社会で発生する様々な政策課題を、政治学・法学・経済学を通じて実践的に学びます。

■英語での講義や演習、中期・長期留学や海外フィールドワークといった多様な教育プログラムにより、世界を舞台に活躍する人材を育成します。



Social Dynamics Program

社会動態コース

■アジア、アフリカ、ヨーロッパにかけての社会の変化を、フィールドワークを通して実践的に理解します。

■フィールドワークによる問題発見、調査、成果公表のスキルを身につけることを重視し、国際的なコミュニケーション力と実践力を備えた人材を育成します。



Human and Cultural Studies Program

共生文化コース

■思想、宗教、表象、メディア、歴史等の面から共生社会の基礎となる文化の重要性を思想史、宗教学、文化研究、歴史学等を通して学びます。

■異なる文化だけではなく、自らの文化を相対化して理解することができる、多文化社会で求められる真のグローバル人材を育成します。



Language and Communication Program

言語コミュニケーションコース

■多文化社会における言語の個性と普遍性及び言語と文化の関わりについて、英語学、日本語学、比較・対照言語学、異文化コミュニケーションを通して学びます。

■多文化が交錯する現代社会において、適切に言語運用ができる人材を育成します。

■所定の単位を修得することで、卒業時に「高等学校教諭一種免許状（英語）」を取得することができるよう、現在、文部科学省へ再課程認定を申請中です。
(文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。)



Dutch Studies Program

オランダ特別コース

■オランダ語文化圏について、人文学・社会科学の様々な角度から学ぶ日本に唯一のコースです。

■欧州の文化に精通し国際的に活躍できる人材や、オランダで起きていることから近未来の日本のありかたを深く考えることができる人材を育成します。

■1年間のオランダ留学が必修となります。



※国際公共政策コース、社会動態コース、共生文化コース及び言語コミュニケーションコースについては、1年次終了時にコースを決定します。

高い語学力は学びの軸であるとともに 多文化社会で活躍するための大切なツール

多文化社会学部では、ビジネス、学術、国際関係など現代社会のそれぞれの分野でグローバル人材として活躍するための不可欠なツールとして、「ことばの力」を重要視しています。「ことばの力」、とりわけ英語力の徹底強化を目的に、系統的で集中した英語力養成プログラムを実施しています。専門知識の習得と同時に、グローバルな多文化社会で活躍するためのスキルとしての「高度の外国語能力」、「コミュニケーション能力」の獲得を目指すことが、多文化社会学部のプログラムの大きな特徴です。また、英語のほかに将来、中国やオランダに留学を希望する学生向けに、中国語及びオランダ語モジュールを開設しています。

■英語教育プログラム

多文化社会学部では英語力強化に向けて段階的に目標値を設定した、英語力養成プログラムを実践しています。目標達成のために、短期留学の義務化、中期・長期留学の推奨（オランダ特別コースは必修）、専門科目の英語での開講及び定期的なTOEFL ITP/IELTSの受験等に取り組んでいます（TOEFL ITPの受験料は学部負担の制度あり。また、IELTSは学内でも定期的の実施。）。

英語カフェ

実践的に生きた英語を鍛えるコミュニケーションプログラム

英語カフェは、授業よりもくつろいだ雰囲気の中で、アクティブで実践的な英語コミュニケーション力を養う機会を提供します。日本の文化、歴史、社会について英語で語るための語彙を習ったり、プレゼンテーションやノートテイキングなど英語での授業に必要なスキルを身につけたり、TOEFLやIELTSに必要な「英語での教養」に触れたり、映画やニュースについて意見を交わしたり、といった様々なトピックを通して、英語力に広がりと深さを加えていきます。

2年次以降の学生には、培ってきた英語力をさらに磨き、向上させるための【英語カフェ advanced】も用意されています。



Student's Voice



【初年次セミナー】
「学びたいこと」を仲間とともに探求

1年 赤峯 慎之介
大分県・大分高等学校 出身

初年次セミナーでは、10名程度の少人数のグループに分かれ、メンバーと協力して課題に取り組みます。具体的には、グループで研究するテーマを最初に設定し、文献調査やフィールドワークを通じてそのテーマに対する知識や考えを深めていきます。教授と学生との距離が近いため、講義はいつも盛り上がります。また、高校までの受け身な授業とは異なり、学生が能動的かつ主体的に自らの学びを深めていくという大学スタイルの学び方を身につけることができます。さらに、この講義で養われる力として、自分の意見をはっきりと伝える力、自分の主張ばかりではなく自分とは異なる考えを持つ仲間の意見も受け入れる力などが挙げられます。これらの力は、多文化社会学部生として必ず求められるものなので、初年次セミナーで培った力はこれからの学びに生きてくると感じています。

英語科目 18 科目

(1年次) 8科目
Study Abroad and Presentation
Reading and Writing I
Reading and Discussion I
英語のしくみと意味 I
英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ
総合英語Ⅰ、Ⅱ

(2年次) 5科目
Academic Writing I
英語のしくみと意味Ⅱ
Reading and WritingⅡ
英語コミュニケーションⅢ
総合英語Ⅲ

(3年次) 5科目
Academic WritingⅡ
Reading and DiscussionⅡ
Advanced EnglishⅠ、Ⅱ
Debate

多文化ラウンジ

フリースペースを活用して語学力アップ！

学生が自由に使えるスペースで、自習や打ち合わせのほか、英会話の実践的練習のためにも使うことができます。ここで学生同士、あるいは留学生や教員を交えて語学力の向上を目指します。



英語能力試験高得点者向けプログラム

International Social Activities (ISA)

入学時に指定の英語スコアに達している学生は、短期留学に代えてInternational Social Activities (ISA) を受講することができます。学生は、原則、本学部が指定する公的な、あるいは民間の機関において、夏季休業中に国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワーク等に参加し、教室での学びとは異なったフィールドでの経験を積みま



【Study Abroad and Presentation】
柔軟な思考力と、海外で通用する「発信能力」を身につける

1年 小林 郁子
北海道札幌西高等学校 出身



この講義では、主に海外留学に行くために必要となる語学力や留学までの具体的な準備について学びます。また、グループ・ディスカッションや長崎大学に通う留学生へのインタビューなどを通して、他国の文化についての見識を深め、多角的な思考力と積極性を養います。授業は、ネイティブの先生によって英語で行われ、丁寧に指導をいただけるので、授業中には学生たちも自然と英語で会話するようになり、理解力や語彙力の向上には願ってもない環境です。また、グループワークを通じて、学生一人一人が積極的に様々な人との交流を図りながら多くの意見や考え方を吸収することもできます。留学のための語学力と情報発信力を培うことのできる、魅力的な講義です。

世界への扉を開くさまざまな留学プログラム

異文化への理解を深めるために留学を推奨している長崎大学。そのなかでも多文化社会学部では、短期、中期・長期留学や海外フィールドワーク実習をカリキュラムに組み込み、さまざまな形で海外で学ぶプログラムを設定しています。英語をはじめとする語学力の向上を目指すだけでなく、世界を舞台に多文化社会学の専門性を深めることを目的としています。

■短期留学

短期留学は、主として1年次の学生全員を対象としています。英語能力の向上と異文化交流への関心を高めることを目的に、夏季(9月)又は春季(3月)の3週間程度、ホームステイや現地学生との交流を経験しながら、海外大学との連携に基づくサマープログラム等に参加します。

留学前には複数回のオリエンテーションを開催し、現地の事情を学び、安全についての意識を身につけます。過去に実施した短期留学では教職員が旅程の一部を引率して留学生生活をサポートしました。短期留学は、長崎大学の教養教育科目の一部である外国語科目として単位認定されます。

過去の実績は次のとおりです。プログラムの内容および奨学金の給付額は変更する可能性があります。

Ⅰ 留学先地域、大学及び時期について (過去4年間の実績)

地 域	留 学 先 大 学	時 期
アメリカ	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校	夏 季 (9月)
	ナショナル大学	
カナダ	ウィニペグ大学	
	カルガリー大学	
	マニトバ大学	
	レスブリッジ大学	
オーストラリア	エディスコーワン大学	春 季 (3月)
	クイーンズランド工科大学	
	サザンクロス大学	
イギリス	キール大学	
	ハイランド&アイランド大学パース校	

Ⅱ 旅行代金 (実績)

約30 ～ 45万円

※旅行代金に含まれるもの：エコノミークラス利用往復航空券、航空保険料・燃油費、日本・現地空港諸税、現地空港～大学の往復送迎費、宿泊費、授業料・研修費、食費（一部）
※旅行代金に含まれないもの（一部を例示します）：超過手荷物料金、海外旅行保険、長崎又は福岡空港までの往復交通費、その他実費、その他個人的生活諸費用

Ⅲ 留学奨学金 (給付型の実績)

13万円（アメリカ、カナダ、イギリス）

12万円（オーストラリア）

※学業成績や家計の所得を踏まえて給付します。

■海外フィールドワーク実習

海外フィールドワーク実習は、中期・長期留学に準じるものとして実施されます。アジアやアフリカなどからフィールドを選定し、他者と出会い、相互作用する中で、グローバル時代の社会人として必要な実証と理論の力を高め、同時に多分野横断的な学びを実現することができます。

実施2年目となった平成29年度は、9名の学生がタンザニアのザンジバル州立大学の学生と協力してフィールドワークを行いました。3年目となる平成30年度は、フィールドを台湾に移して実習を行う予定です。

➡ 海外フィールドワーク実習に参加した在学生からのメッセージ



4年 羽田 真紀代

長崎県・聖和女子学院高等学校 出身

「アフリカってどんなところだろう？自分も行ってみたい!」という小さなきっかけから、私は海外フィールドワーク実習の履修を決めました。現地では、木工房兼土産物販売店において「一点モノ」の作品を作り出す木工・木彫職人に着目し、調査を行いました。実際に仕事の様子を自分の目で見ることで、時には予想もしない発見があり、まさにフィールドワークの醍醐味を味わうことができました。調査以外にも、迷路のような街中を散策したり、現地の食べ物や味わったり、音楽に触れたり、近くでシュノーケリングをしたりして過ごした毎日は何ものにも代えがたい時間でした。そのような生活を通して、私たちが「当たり前」だと思っている生活が、必ずしも「当たり前」ではないことに気付かされました。この経験は、自分にとって大きな財産です。



4年 梶原 拓樹

福岡県立北筑高等学校 出身

私は、海外フィールドワーク実習に参加し、タンザニアのザンジバルで土産物絵画として人気のあるマサイペインティングについて調査しました。マサイペインティングの画法や歴史について学ぶために、現地の画家と交流しながら、その中の一人のハシム氏に弟子入りしました。毎朝10時に作業場へ行き、ハシム氏の指導の下、約2時間かけて一枚の絵を仕上げる、そんな毎日でした。ハシム氏との会話は英語と覚えただけのスワヒリ語で行いました。現地の人々と密に関わり合い、そこで見聞きしたものを学びの糸口を発見していくフィールドワークは、冒険心をくすぐる最高のものでした。使用言語や文化的背景が異なる環境へ飛び込んでいくことに不安もありましたが、今は海外フィールドワーク実習に参加してよかったと心から思います。海外フィールドワーク実習、最高!!

■中期・長期留学

中期・長期留学は、語学力の向上にとどまらず、学部で学んだ専門知識を土台として、留学先において更に専門性を深めることを目的としています。大学間の学術交流協定に基づく交換留学として実施されるため、学生は長崎大学に学費を納入し、長崎大学に在学したまま半年から1年間留学することになります。

・留学するためには、定められた時期までに語学力及び学業成績に関する一定の学部内要件を満たすとともに、学内選考に合格することが必要です。

・「オランダ特別コース」の学生は、1年間のオランダ留学が必修となります。その他のコースの学生にも中期・長期留学を強く推奨します。

・留学先で取得した単位は、授業内容・レベル・形態の観点から精査し、長崎大学で開講している科目の単位として認定します。そのため、中期・長期留学に参加した場合でも4年間で卒業することも可能です。

留学サポート体制

多文化社会学部では留学相談室を設置し、留学に関する必要な情報を提供しています。留学先の決定や渡航手続き、履修科目の選択等、留学に関する疑問や不安は、海外経験が豊富な国際交流ディレクターに相談することができます。

学生が海外留学に出発する前には、危機管理等に関するオリエンテーションを実施しています。留学中は、指導教員等が随時電子メール等で学生の修学・生活相談に応じるほか、留学先大学の担当者とも密に連絡を取り合い、学生の状況を把握するとともに、学部内での情報共有とトラブルへの対応に当たっています。

また、長崎大学は留学生危機管理サービス（OSSMA）に加入しており、24時間体制で学生の留学生生活をサポートしています。（※留学サポート体制は、大学の組織改変により名称等が変更されることがあります。）



留学相談の様子



中期・長期留学に参加した 在学生からのメッセージ

現地の人々との交流を通してオランダの伝統や社会を学ぶ

4年 榎園 美香子

滋賀県・比叡山高等学校 出身

留学先：オランダ/ライデン大学

ライデン大学ではオランダ語を中心として、オランダの歴史や社会、文化に関して勉強しました。移民を多く受け入れている多文化な国だけあって、多様なバックグラウンドを持つクラスメイトとの授業では毎回新しい発見があり、とても刺激的でした。

私がこの留学で大切にできたことは、現地の人々との関わりや交流を通じた学びです。オランダでは季節毎に様々なパーティーやイベントが開かれ、その度にオランダ人の友人の家庭で伝統料理やお祝いごとを体験する機会を得ました。

多くのオランダ人に会い、交流する中で、初対面でも自分の将来やプライベートをざっくばらんに話す、壁をつくらない人間関係の在り方に驚きました。そしてこのようなオランダの人々の性格が多文化な国を支えているのかもしれないと感じました。



左が榎園さん

世界屈指の名門大学で磨く「主体的議論参加」力

4年 榎本 力良

大分県立別府鶴見丘高等学校 出身

留学先：ドイツ/マンハイム大学

留学先では社会科学部に所属し、主に政治学と社会学の授業を受講しています。私が1年間で実際に受講した授業はすべてゼミナール形式でした。教師から生徒へ一方通行式に知識を伝達するレクチャーとは異なり、少人数制のゼミナールで求められるのは議論、「あなたはこう考えるか」です。生徒は皆とても流暢な英語で主体的に議論を交わし、自分から手を挙げなければ誰もあなたに発言を催促しません。予習を怠り、自分の意見を用意せずに授業に臨めば、何も発言できずに教室の空気と同化し、90分に及び地獄を見ます。しかし、議論に主体的に参加し、そこから何かを学び取るという気概があれば、十分に自分を試せる世界トップレベルの大学です。

マンハイム大学社会科学部の研究方法は定量分析・実証分析が主なので、その手法をしっかりと学んで、帰国後の卒業研究に応用するつもりです。



中央が榎本くん



海外協定先 (平成30年5月1日現在)

長崎大学には世界各地に海外協定先があります。夢や目標を持って世界へと飛び出していく学生を支援するため、今後も、さらに海外協定先のネットワークを広げていきます。

※（ ）内はこれまでの留学実績（平成30年5月時点。現在留学中、渡航が決定済みのものを含みます。）



【ノルウェー】 ノルウェー科学技術大学	【中国】 華東師範大学 (1) 陝西師範大学 吉林大学 山東大学 (2) 西北大学 香港教育大学 (1) 北京外国語大学 (1) ※ ※協定校ではないが中国政府奨学金を利用して留学	【カナダ】 ウィニペグ大学 (2) カルガリー大学 (3) ニューファンドランドメモリアル大学 (2) フレージャーバレー大学 (1) マニトバ大学 レスブリッジ大学 (2)
【ドイツ】 アウグスブルク応用科学大学 ゲオルク・ジモン・オーム大学ニュルンベルク ハインリヒ・ハイネ大学 ホーフ応用科学大学 マンハイム大学 (7)	【台湾】 亞洲大学 国立政治大学 国立台湾大学 (3) 国立台湾師範大学 国立高雄大学 国立高雄応用科技大学 成功大学	【アメリカ】 アーカンソー工科大学 ウェスタンイリノイ大学 (1) カリフォルニア州立大学モントレーベイ校 (5) ディキンソン州立大学 (ノースダコタ州) ノースイースタン・イリノイ大学 (2) ノーザン州立大学 (5) フロストバーク州立大学 (4) ベネディクティン大学 (イリノイ州) (3) ペンシルベニア州立インディアナ大学 (1) ミネソタ州立大学マンケイト校 メトロポリタン州立大学 モラヴィアン大学 ロングウッド大学 (1)
【オランダ】 ライデン大学 (17) ラドバウト大学 (2)	【韓国】 亞洲大学校 建国大学校 (2) 東国大学校 延世大学校 (原州キャンパス) 成均館大学校 (1)	【オーストラリア】 ウェスタンシドニー大学 (1) エディスコーワン校 クイーンズランド工科大学 サザンクロス大学 (3) サンシャインコースト大学 (3) ディーキン大学 (2) ビクトリア大学
【ベルギー】 モンス大学 ルーヴァン・カトリック大学 (2)	【インドネシア】 インドネシア大学	
【フランス】 アンジェ大学 (1) パリ東＝クレティユ大学 (1)	【タイ】 カセサート大学 (2) チェンマイ大学 チュラロンコン大学	
【スペイン】 マラガ大学 (3)	【ベトナム】 カントー大学	
【イタリア】 カ・フォスカリ大学 (1)	【フィリピン】 アテネオ・デ・マニラ大学 (1) フィリピン大学ディラン校 (2) フィリピン大学ビサヤ校 (1)	
【ポルトガル】 フェルナンドペソア大学	【ブルネイ】 ブルネイ・ダルサラーム大学 (1)	
	【マレーシア】 テイラーズ大学 (3)	

留学奨学金

長崎大学では、中期・長期留学に係る費用の一部を支援することを目的として、海外留学奨学金制度を整備しています。また、様々な外部団体の奨学金制度を活用できるように支援しています。（※受給できる人数には限りがあります。また、予算の都合により今後変更される場合があります。）

◎日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）（H29年度受給者34名）
学業成績や家計基準など一定の基準を満たした学生に対して、留学期間に応じて最大12ヶ月間、月額6～10万円（留学地域により異なる）を給付。

◎長崎大学海外留学奨学金（H29年度受給者5名）
学業成績など一定の基準を満たした学生に対して、留学期間に応じて最大3ヶ月間、月額6～10万円（留学地域により異なる）を給付。

◎トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム（受給者：第4期生2名、第5期生4名、第6期生2名、第8期生2名）
文部科学省初の官民共同で取り組む海外留学支援制度である本プログラムでは、単位取得を目的とした留学だけでなく、インターンシップやフィールドワークなど、自分で組み立てた留学計画を支援。奨学金、渡航費、授業料などの支援を受けることができる。他の奨学金と比べて給付額が多いことも特徴。

◎中国政府奨学金（H28-29年度受給者 各2名）
中国政府が給付する、中国に留学する学生を対象とした奨学金。生活費の給付や学費の免除など手厚い支援がある。

気候も人も暖かい「人種のサラダボウル」での豊かな生活

4年 岸川 友菜

福岡県・筑紫台高等学校 出身

留学先：アメリカ/カリフォルニア州立大学モントレーベイ校

都会と田舎のちょうど中間のようなモントレーには海や山などの美しい自然がある一方、買い物やご飯を楽しむことのできる街もあります。また、国内でも「人種のサラダボウル」をより実感できるカリフォルニア州とあって、様々な国籍の人やもので溢れています。そんな素敵な場所で誕生日サプライズをしてもらったり、ハロウィンにはかぼちゃ彫りに挑戦したりと、異文化交流をしながら楽しく生活しています。



前列左が岸川さん

勉強面では、サービスマーケティングという授業を通して高校や放課後の小学校で日本の文化や言葉を教える「Japanese class」を開きました。ただ教えるのではなく、教えた結果やその意義を振り返って考察する計35時間の活動を通して、自分の関心である「教育を受ける権利」に対する考えを深め、改めて見つめ直すことができました。この経験をもとに卒業研究にも取り組む予定です。

体験を通じて自分と向き合う時間を与えてくれた留学生活

4年 大仁田 萌

熊本県立玉名高等学校 出身

留学先：中国/香港教育大学

教育をより専門的に学びたかったことと、中華圏の文化に興味があったことを理由に留学先を選択しました。満員電車や広東語が飛び交う市場には2カ月程度で慣れることができ、毎日新しい発見がある充実した生活を送ることができました。大学では、言語教育や社会学の授業を受講しました。教師志望の学生たちとそれぞれの国の教育について議論し、様々な視点に触れることができたのは非常に有意義でした。

週末には、日本人補習授業校でボランティア活動を行いました。日本語を懸命に学ぶ子どもたちや、教師の方々との関わりを通して、自分の教育に対する思いや進路を考え直すことができました。これからの卒業研究だけでなく、卒業してからも継続的に、海外で日本語を学ぶ子どもたちの日本語教育について学んでいきたいと考えています。日本語教師として香港で働くことを目標に、自分と向き合うことを怠らず、これからも勉学に励みます。



右から2番目が大仁田さん

毎日が新鮮で、充実した留学生活

4年 松尾 幸来

長崎県立長崎北高等学校 出身

留学先：韓国/建国大学校

建国大学校では、留学生のためのアクティビティが豊富で、他国からの留学生はもちろん、現地の学生との交流も深めながら、韓国の文化を体験する機会が多くありました。キャンパスの立地も良く、学生で賑わうグルメ街が近くにあるため、現地の学生の雰囲気を感じることができます。授業は英米文学や言語学など、英語開講の授業を受講しました。プレゼンテーションやディスカッションの時間も多く、授業を通して友人がでやすかったです。

授業がない時間帯や授業の後にはカフェで勉強したり、地下鉄に乗って遊びに行ったり、週末や連休には釜山や大邱へ小旅行に出かけたりしました。授業や留学生とのコミュニケーションは英語でしたが、その他の日常生活では韓国語に触れるなど、日々新しく学ぶことの連続で楽しく充実した留学生活を送ることができました。



右から2番目が松尾さん

多文化社会学部の学びのシステム

語学力を徹底的に強化し、人文社会系諸分野を「多文化社会」の観点から再編・統合した学際性に富むカリキュラム

学びの領域	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
多文化社会について学ぶ	短期留学	短期留学			中 期 ・ 長 期 留 学			
	多文化社会学の諸問題Ⅰ（社会） 多文化社会学の諸問題Ⅱ（人文） 国際公共政策入門（政治） 国際公共政策入門（法） 国際公共政策入門（経済） 社会学入門 人類学・民俗学入門 歴史学入門 文化研究入門 思想・宗教研究入門 言語コミュニケーション入門 エリア研究入門		軍縮論 国際関係基礎（政治史） 国際関係基礎（政治思想） ジェンダーと人権 国際法 ミクロ経済学 国際社会学基礎 地域社会学基礎 家族社会学基礎 教育社会学基礎 歴史社会学基礎 文化人類学基礎（観光） 文化人類学基礎（民族誌） 文化人類学基礎（生態・社会） 文化人類学基礎（民俗学） 歴史学基礎（日本） 歴史学基礎（ヨーロッパ） 歴史学基礎（文化交流）	歴史学基礎（考古学） 思想史基礎（日本） 思想史基礎（中国） 宗教学基礎 文化研究基礎（表象） 文化研究基礎（メディア） 言語学基礎A 言語学基礎B 中国語学基礎A 中国語学基礎B 英語の発想と表現A 英語の発想と表現B 日本語学基礎A 日本語学基礎B	国際機構論 平和学 EU法 国際政治学 比較政治学 国際経営論 開発経済学 国際人権論 グローバルヘルス 計量経済学 アジア経済論 多文化マーケティング論 国際社会学 異文化理解教育 トランスナショナリティ論 異文化と家族 グローバル社会学 現代アフリカ社会論 現代アジア社会論 陶磁考古学 グローバル文化交流史 社会史	異文化交流論 文化資源論 地域生態論 日本思想史 中国思想史 宗教文化論 記憶文化論 文化表象論 映画論 メディア・スタディーズ 地域史料論 イギリス文学論 異文化間コミュニケーション 英語音声のしくみと働き 英米文学概論 応用言語学 現代言語理論 コーパス言語学 対照言語学（日英） 対照言語学（日中） 第二言語習得論 日本語学	卒業研究	
			オランダ文化論	オランダ現代社会論	日蘭比較文化	ライデン大学留学	特別研究	
	キャリアについて学ぶ	グローバルキャリア入門		自主企画インターンシップ（海外インターンシップも実施可能（詳細は16頁参照）） 企業研究		キャリア形成論		
実践的な調査研究手法を学ぶ	初年次セミナー		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ			
	リサーチ入門（フィールドワーク） リサーチ入門（文献調査）含古文書		リサーチ基礎（インタビュー、参与観察） リサーチ基礎（サーベイ） リサーチ基礎（表象） リサーチ基礎（アーカイヴ） リサーチ基礎（映像） 外国語文献講読		フィールドワーク実習（海外／国内）			
外国語コミュニケーションについて学ぶ	Study Abroad and Presentation Reading and WritingⅠ	英語のしくみと意味Ⅰ Reading and DiscussionⅠ	英語のしくみと意味Ⅱ Reading and WritingⅡ	Academic WritingⅠ	Academic WritingⅡ Reading and DiscussionⅡ	Debate		
	総合英語Ⅰ 英語コミュニケーションⅠ	総合英語Ⅱ 英語コミュニケーションⅡ	総合英語Ⅲ	英語コミュニケーションⅢ	Advanced EnglishⅠ	Advanced EnglishⅡ		
			中国語総合表現Ⅰ	中国語総合表現Ⅱ	中国語文献討論Ⅰ	中国語文献討論Ⅱ	中国語プレゼンテーション	
	初習外国語Ⅰ	初習外国語Ⅱ	オランダ語Ⅰ 初習外国語Ⅲ	オランダ語Ⅱ 初習外国語Ⅳ	オランダ語Ⅲ			
幅広い知識と技法を学ぶ	ミュージアム・講演ラリー 大使館連続講義 情報基礎 キャリア入門 長崎地域学	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ 寄附講座：アジア共同体講座 全学モジュールⅠ スポーツ演習 健康科学	全学モジュールⅡ	全学モジュールⅡ				

※科目名称及び科目の開講時期は変更となる場合があります。

朱字＝教養教育科目

[カリキュラム概要] 主に以下の科目群から成り立っています。

学部モジュール

1年次に受講する必修科目。世界の諸地域に生起する多文化社会の諸問題と、専門学問分野の基礎を学びます。

リサーチ科目、フィールドワーク

自ら立てた問いに対して、学術的に探究して発表する能力を身につけます。「フィールドワーク実習」では、国内外での実習を通じて、様々な課題を発見・整理し、多様な背景をもった人々とのコミュニケーションを通じて、高い問題解決能力を涵養することを目指します。

基礎講義

既存の学問分野の特質を十分に理解した上で、その枠を越えて領域横断的に多文化社会の諸相にアプローチするための基礎的視点と枠組みを身につけます。

中国語モジュール

世界で必要性が増している中国語を学びます。最終的には中国語によるプレゼンテーションができるレベルの力を身につけます。

専門講義

5つのコースごとに専門分野の理解を深めます。オランダ特別コースでは、ライデン大学への留学が必須。ライデン大学では学生の関心と将来計画に即した講義を受講し、ヨーロッパ単位互換制度（ECTS）に準拠したグローバルな専門知識と技能を身につけます。

英語モジュール

英語のしくみから発音法、リーディング、ライティング、ディスカッション、ディベートまで学び、高度な英語力の習得を目指します。

海外留学

短期留学は、主として1年次の学生全員を対象としています。英語能力の向上と異文化交流への関心を高めることを目的に3～4週間程度、ホームステイや現地学生との交流を経験しながら、海外大学との連携に基づくサマープログラム等に参加します。

中期・長期留学は、語学力の向上にとどまらず、学部で学んだ専門知識を土台として、留学先において更に専門性を深めることを目的として半年から1年間留学します。なお、「オランダ特別コース」の学生は1年間のオランダ留学が必修であり、その他のコースの学生にも中期・長期留学を強く推奨しています。

国際公共政策コース

国際社会で発生する

様々な政策課題に対する知識や
分析手法を実践的に学ぶ

国際公共政策コースでは、紛争や軍縮、人権侵害、貧困や開発、法の支配、保健・衛生など、国際社会で発生する様々な政策課題に対して、主に政治学・法学・経済学の知識や分析手法を駆使して実践的に学びます。

このコースでは、国家間だけでなく国境を越えた市民が相互に依存しながら変化するグローバル社会を理解するために、専門性を深めると同時に学際性を高めたカリキュラムを設計しています。さらに英語での講義や演習、中期・長期留学や海外フィールドワークといった多様な教育プログラムにより、世界を舞台に活躍する人材の育成を目指しています。



《開講科目》

- 国際機構論
- 平和学
- EU法
- 国際政治学
- 比較政治学
- 国際経営論
- 開発経済学
- 国際人権論
- グローバルヘルス
- 計量経済学
- アジア経済論
- 多文化マーケティング論
- 異文化理解教育
- 地域生態論

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

社会動態コース

社会の変化を

フィールドワークを通して
実践的に理解する

社会動態コースでは、社会学、文化人類学、歴史学を中心として、アジア、アフリカ、ヨーロッパにかけての社会の変化を、フィールドワークを通して実践的に理解します。長い歴史において、ヒトやモノや情報は、常に移動を繰り返してきました。世界のどこかで発生した小さな変化が、人々の行動や情報伝達を通じて他の場所で大きな、思いもよらぬ変化をもたらしたりします。こうした全体的な変化のあり方を「社会動態」といいます。

このコースでは、「社会動態」を学ぶために、フィールドワークによる問題発見、調査、成果公表のスキルを身につけることを重視し、国際的なコミュニケーション力と実践力を備えた人材育成を目指しています。



《開講科目》

- 国際社会学
- 異文化理解教育
- トランスナショナリティ論
- 異文化と家族
- グローバル社会学
- 現代アフリカ社会論
- 現代アジア社会論
- 陶磁考古学
- グローバル文化交流史
- 社会史
- 異文化交流論
- 文化資源論
- 地域生態論
- 宗教文化論
- 地域史料論

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

Teacher's Voice



正解はないかもしれない
でも、考え続けなくてはいけないこと

近江 美保 教授
主な担当科目：国際人権論

難民や貧困、様々なマイノリティ（少数者）、あるいはテロ対策など、現代の社会には人権とかかわる問題が数多く存在しています。人権にからむ問題の難しさは、例えば、難民として他国に移動する人々もいれば、その人たちを受け入れることで自分たちの生活が影響を受ける人々もいて、その双方に守るべき人権があるということです。少しでも状況を改善するためにはどうしたらよいのか。簡単ではありませんが、様々な視点から人権について考えることは、まさに多文化社会のあり方を考えることにほかなりません。

基礎となる国際人権法を学びながら、私たちの周りにある人権問題を持ち寄って議論します。答の出ない問いだとしても、自分なりの解決策を探して考え続けること。その面白さと意義を感じてもらいたいと考えています。

Student's Voice



現代グローバル社会の抱える
課題へ目を向ける

4年 下藺 玲佳
長野県長野西高等学校 出身
留学先：イギリス／キール大学

世界のしくみと諸問題について、政治学、経済学、法学など学際的な視点から学べるというカリキュラムに興味を持ち、本コースを選択しました。

開講されている授業の中で印象に残っているのは国際政治学です。この授業では、世界政府が不在の国際社会で第二次大戦後の国際秩序がどのように形成されて、冷戦後のグローバル時代の国際関係はどのように変化しているのか、歴史的経緯や主要理論を踏まえて、日々の国際情勢を事例にして学びました。

イギリス・キール大学の留学から帰国後、国際関係論の一分野である国際政治経済学の視点から、「英国のEU離脱問題とメディア報道」をテーマに卒業研究を行っています。卒業後は大学院へ進学し、この学部で修得した知識と考え方を活かしてさらに研究を進めたいと考えています。

Teacher's Voice



先入観から自分自身を引き離す能力と
文化的な他者と生きる能力を磨く

賽漢卓娜 准教授
主な担当科目：異文化と家族

グローバルに移動する「家族」について、社会学や移民研究から学びます。家族の多様化や個人化が進む時代に生きる私たちは、これまでにない規模で国境を跨って移動するようになり、それに伴い国際結婚をはじめとする移動する家族が急増する時代も同時に経験しています。講義では、家族を「常識」から問い直し、多様な文化背景を持つ人々のアイデンティティ、また家族と社会、国家との関係を、座学およびグループ・ディスカッション形式を通じ検討していきます。

多文化社会学部で先入観から自分自身を引き離す能力と、文化的な他者と生きる能力を磨き、高めることを学生に求めています。自らのライフデザインをしっかりと考え、真の多文化共生社会を構築していくための人材として力を発揮してほしいと思います。

Student's Voice



人々の暮らしと環境が
密接に結びついている
アフリカ社会について
同時代性を意識しながら考える

4年 宮城 敬
沖縄県・昭和薬科大学附属高等学校 出身
留学先：アメリカ／ベネディクティン大学

私が社会動態コースを選んだ理由は、文化人類学や社会学など自分の興味に近い学問分野を専門にされている教員が多かったからです。私自身は現在、アフリカの都市における労働移民に関する研究を行っています。とりわけ、ウシやヒツジ、ヤギなどの家畜飼養を基盤にして生計を立てている東アフリカの牧畜民族が、出稼ぎ先においてどのような人間関係を構築するかという点に着目しています。

本コースの地域生態論という授業では、アフリカの狩猟採集民や牧畜民が変わりゆく環境にいかにか柔軟に適応し、生活しているかについて事例を通じて学びます。私たちが普段イメージするアフリカとは違う側面からアフリカについて学ぶことができ、とても魅力的な授業です。

卒業後は、現在の研究テーマをより発展させるために、大学院に進学したいと考えています。そして、どのような形であれ、今後もアフリカに関わり続けたいと思っています。

共生文化コース

共生社会の基礎となる
文化の重要性を学ぶ

共生文化コースでは、思想、宗教、表象、メディア、歴史等の面から共生社会の基礎となる文化の重要性を、思想史、宗教学、文化研究、歴史学等を通して学びます。世界がグローバル化すると、多様な文化的背景をもつ人々が同じ空間の中で出会い、共生する機会が増えます。そこでは、互いの文化についての深い知識と共感が必要です。このコースでは、思想、宗教、表象、メディア、歴史等を関連づけながら学び、他者との共生をより豊かなものにするための人間観、文化理解を探究します。

カリキュラムは、アジアや日本の文化についても深く学べるように設計しています。異なる文化だけではなく、自らの文化を相対化して理解することができる、多文化社会で求められる真のグローバル人材を育成します。



《開講科目》

- 陶磁考古学
- グローバル文化交流史
- 社会史
- 文化資源論
- 日本思想史
- 中国思想史
- 宗教文化論
- 記憶文化論
- 文化表象論
- 映画論
- メディア・スタディーズ
- 地域史料論
- イギリス文学論
- 異文化間コミュニケーション
- 英米文学概論
- 日本語学

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

言語コミュニケーションコース

多文化社会における
言語の個性と普遍性及び
言語と文化の関わりについて学ぶ

言語コミュニケーションコースでは、多文化社会における言語の個性と普遍性及び言語と文化の関わりについて、英語学、日本語学、比較・対照言語学、異文化コミュニケーションを通して学びます。日本語、英語、中国語に焦点を当てながら、言語そのものの特性と言語を取り巻く環境について体系的に学ぶことで、コミュニケーション活動にとって不可欠な言語のしくみと機能を適切に理解する力を養成します。欧米や中国語圏の文化についても見識を深めることで、多文化が交錯する現代社会において、適切に言語運用ができる人材を育成します。このコースにおいて、所定の単位を修得することで、卒業時に「高等学校教諭一種免許状（英語）」を取得することができるよう、現在、文部科学省へ再課程認定を申請中です（文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。）。



《開講科目》

- 異文化理解教育
- 異文化と家族
- 異文化交流論
- イギリス文学論
- 異文化間コミュニケーション
- 英語音声のしくみと働き
- 英米文学概論
- 応用言語学
- 現代言語理論
- コーパス言語学
- 対照言語学（日英）
- 対照言語学（日中）
- 第二言語習得論
- 日本語学

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

Teacher's Voice



古典の研究を通して
現代にまで通じる
生き方のヒントを学ぶ

連 清吉 教授
主な担当科目：中国思想史

1912年、京都中国学開祖の狩野直喜が欧州に遊学するとき、中国の歴史家・文学者である王国維が彼に送った長詩の冒頭は、「平生未擬媚鄒魯、舛蠶每與沂泗通。自言読書知求是、但有心印無雷同」でした。その意味するものは、「儒家の教説を無批判には鵜呑みにせず、その原意を獲得する。書を読むのは真理を追求するためであり、ゆえに「心印」すなわち心底からの共感に達することを求め、「雷同」すなわち無批判に他人の意見に同調することはない」です。そこには、儒家の古典をもっぱら倫理道德の書として扱ってきた態度から脱却し、それを客観的な中国文明史の学術的研究の対象として捉えることが、結果として儒家の教えにかなったものになるという認識があります。このような「発想転換」こそ、現代の多文化社会を生きる我々に求められているものであるとも言えるでしょう。古典の研究を通して現代にまで通じる生き方のヒントを学ぶことができるのも、共生文化コースの特徴です。

Student's Voice



「当たり前」の見直しから始まる
問いに挑む

3年 青野 舞
愛媛県立今治北高等学校 出身
留学先：フランス／アンジェ大学

「宗教」と聞くとどんなイメージが思い浮かびますか？ 怖い、テロ…と、マイナスなイメージが強いのではないのでしょうか？日本では宗教というネガティブな印象がある上、どこか自分とは無関係なものと感じている人が多いと思います。しかし、本当に私たちとは無縁のものなのでしょうか？私も新渡戸稲造の『武士道』を読むまでは、自分の宗教について考えたこともありませんでした。この本は、日本人に眠る精神を「武士道」という言葉で他の宗教も引用しながら説明しており、日本人の宗教性について考えさせられるきっかけとなりました。

今は「人が神格化される」現象について理解を深めたいと思い、思想・宗教・表象・メディア・歴史から社会を見つめる共生文化コースで学んでいます。ここでは、自分たちの「当たり前」をもう一度問い直し、多方面から社会にアプローチします。「当たり前」の見直しから始まる疑問と一緒に挑んでみませんか。

Teacher's Voice



言語の個別・普遍性を
論理的に考察し
鋭い言語感覚を身につける

谷川 晋一 准教授
主な担当科目：対照言語学（日英）

日英語を比較考察することにより、それぞれの言語がどのような特徴を持つかという個性に加え、言語一般に当てはまる仕組みや法則という普遍性について学びます。日英語は、語順など多くの面で特徴が異なりますが、共通の構文や現象も存在します。それらを、形式、文法、意味の観点から考察し、日英語の相違点及び共通点について言語理論にも目を向けながら議論を行います。単に言語事実を知るだけでなく、「なぜ相違性や共通性が存在するのか」という問いに向き合うことで、言語事実を論理的に分析する力も養います。

言葉は、社会を映し出す鏡です。多文化社会で活躍するには、言語の特徴を踏まえ、場面に応じて適確に言語を運用する力が求められます。論理的観点から日英語を考察することで、言語感覚を磨いてください。

Student's Voice



ことばの中から見える世界

4年 梶原 沙稀
福岡県立春日高等学校 出身
留学先：アメリカ／ノーザン州立大学

大学に入って興味深いと感じた授業の一つが「英語の仕組みと意味」でした。そこで前置詞一つ一つのもつ核となるイメージを学んだことが、とても印象に残りました。高校までの勉強では、教科書や参考書通りに一つの表現を一つのものとして暗記していましたが、この授業を通して英単語の持つ意味とニュアンスをしっかりとらえることで、同じような英文も状況によって使い分けられるということを理解できたからです。このような言語の仕組みに強く興味をもち、言語学のゼミを選択しました。

卒業研究では、英語の映画をもとにネイティブスピーカーの用いる言い回しや日本語字幕に注目し、そこに含意されている意味や背景について分析してみたいと考えています。将来的には、この学部で学んだ言語や異文化に関する知識を生かしながら、日本に滞在する外国の方と積極的に関わるような仕事に就きたいと考えています。

オランダ特別コース

オランダ語文化圏について、
人文学・社会科学の
様々な角度から学ぶ

オランダ特別コースは、オランダ語文化圏について、人文学・社会科学の様々な角度から学ぶ日本に唯一のコースです。このコースでは、オランダを出発点にヨーロッパ社会について学ぶことにより、欧州の文化に精通し国際的に活躍できる人材や、オランダで起きていることから近未来の日本のありかたを深く考えることができる人材を育成します。

1年間のオランダ留学が必修となります。留学先のライデン大学では、オランダ語の学修および学生の関心と将来計画に即した講義を受講し、ヨーロッパ単位互換制度 (ECTS) に準拠したグローバルに通用する専門知識と技能を身につけることができます。



出島にて

《開講科目》

- オランダ文化論
- オランダ現代社会論
- 日蘭比較文化
- オランダ語 I
- オランダ語 II
- オランダ語 III
- EU 法
- 異文化理解教育
- 地域史料論
- ライデン大学で取得した科目

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

Teacher's Voice



オランダはヨーロッパ諸国や
世界各国の企業の架け橋

ボイケルス ハルメン 教授
(ライデン大学招聘教授)
主な担当科目：オランダ文化論

オランダは、ヨーロッパの国々の中では比較的小さな国です。ですがヨーロッパにおけるオランダの重要性は、単に数字で語ることはできません。例えば、欧州連合の創設を定めたマーストリヒト条約 (1993) 締結においては、オランダの首相が特別な役割を果たしました。彼は、北欧および南欧の政府間の溝を埋めるのに尽力し、その結果、欧州中央銀行やユーロの導入に貢献しました。

オランダの社会的な風土や政治・行政制度は、世界各国の企業の進出拠点としてふさわしい投資・ビジネス環境を提供しています。さらにオランダは、国際的企業がヨーロッパ諸国に展開する際のハブの役割も果たしています。また、日本企業は、ヨーロッパの中でオランダにもっとも多く進出しています。

これらはあくまで一例ですが、「オランダ文化論」の授業を通じて、オランダのことを更に深く知る機会になることを期待しています。

Student's Voice



多くの著名人が学んだ
夢の場所で

3年 江頭 つむぎ
大阪府立箕面高等学校 出身
留学先：オランダ／ライデン大学

私がオランダ特別コースに進もうと思ったのは、ライデン大学への1年間の留学に惹かれたからです。明治時代の啓蒙思想家である西周を初めとして、様々な著名人がその場所で知識を蓄えた、夢のような場所で私も同じように学びたいと思いました。

現在はメディアに関心があり、特に様々な国の広告や映画予告の比較に興味をもっています。できれば、オランダでの経験と多文化社会学部で学んだ様々な知識や観点を踏まえて、メディアを通した日蘭比較についても研究してみたいと思っています。

今までの授業の中で特に印象に残っているのが2年生の前期に履修したオランダ文化論です。教授は非常に親身で、私に学ぶことの楽しさを教えてくださいました。オランダの文化について学ぶ度にオランダ留学への期待は膨らみ、今夏からの留学がとても楽しみです。

国際学寮 ホルテンシア

入学して一年間は全員入寮！
互いを知り

絆を深める寮生活

原則として、入学して1年間は全学生が寮に入り、1ユニット4人 (外国人留学生1人を含む) のルームシェア形式で共同生活を送ります。様々な文化的背景を持つ者同士が、日常をともにすることで深い絆も生まれます。昨年度の寮長2人に寮生活を振り返ってもらいました。



福岡県立明善高等学校 出身
大藪 和之 (2年)

寮生活で気になることと言えば、ルームメイトのことではないでしょうか。各ユニットのメンバーによって生活スタイルは様々で、みんなで話し合って役割分担などを決めています。テストが近くなれば一緒に勉強したり、誕生日をみんなでお祝いしたり、ルームメイトは家族のようなかけがえのない存在になります。



高知県・土佐女子高等学校 出身
田邊 日梨 (2年)

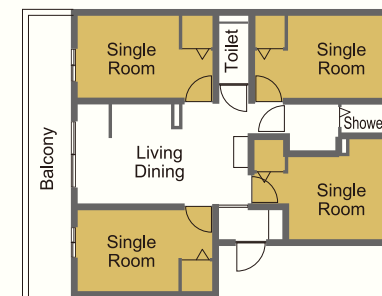
外国人留学生の出身国へ一緒に旅行に行き、現地を案内してもらったり、伝統料理を作り合ったりするようなこともあります。1年生全員が寮に住むので、雪が降ったときは中庭で雪合戦をしたり、集会室ではパーティを開いたりもしました。寮での一年間の共同生活は一生の思い出になると思います。



国際学寮ホルテンシアの外観

個室

共有スペース



■国際学寮ホルテンシア物件概要

【所在地】長崎市内 (大学まで徒歩12分程度) **【収容人数】**135人 (A棟72人・B棟63人) 1ユニット4人 (外国人留学生1人を含む。) のルームシェア形式 (ただし、1ユニットのみ車椅子対応の3人のルームシェア) ※入学者の状況によっては、外国人留学生とのルームシェアとならない場合があります。 **【入居費用】**月額22,000円 (ただし、水道光熱費を除く。) ※入居時に借家人賠償責任保険等の加入、退去時のクリーニング費用として、10,000円が必要です。 **【施設】**集会室、駐輪場 **【設備】**《個室》エアコン、光回線インターネット、TV端子、照明、机、椅子、ベッド、電気スタンド **【セキュリティ対策】**カードキー対応玄関ドア、暗証番号対応個室ドア **【共有スペース】**シャワーブース、システムキッチン、ダイニングセット (テーブル、椅子)、冷蔵庫、電子オーブンレンジ、全自動洗濯機、衣類乾燥機 等 **【食事】**食事の提供はありません。共同キッチンで自炊することができます。

CAMPUS LIFE

勉強はもちろんサークル活動や学内イベントにも参加して
キャンパスライフをより充実したものにしていきましょう。

4月	1年生入寮 入学式 前期授業開始 新入生研修	7月	オープンキャンパス 前期授業終了 前期定期試験	10月	後期授業開始	2月	後期授業終了 後期定期試験
5月	開学記念日	8月	夏季休業	11月	学園祭	3月	短期留学 春季休業 卒業式
		9月	短期留学	12月	冬季休業		

多文化社会学部のキャリア教育・就職支援システム

1 年次から途切れなく提供する多彩なプログラムと1 人ひとりに寄り添ったキャリアカウンセリング

■キャリア教育

語学力じゃない。あなたがビジネスパートナーとして信頼してもらえるかが大切。あるメーカーの海外販売責任者が話された言葉です。国内マーケットの縮小に伴い、企業の多くは海外進出に力を入れています。なかでも国民の平均年齢が若く、経済発展が見込まれる東南アジアやアフリカは注目されています。こうした地域では、英語を母語としない“独自の英語”が一般的。グローバル時代のキャリア形成について、社会や企業の最前線の動きをにらみ、1 年次からじっくりと考えていきます。

1 年次

グローバルキャリア入門
日本企業と外資系企業における「働き方」の違いについて、人的資源管理の面から理解します。また、大学4 年間の過ごし方についてもデザインしていきます。

2 年次

自主企画インターンシップ
学生本人の興味・関心や将来目標にもとづき、主体的にインターンシップへ取り組みます。多文化社会学部では、海外インターンの派遣先も提供しています。

3 年次

キャリア形成論 / 仕事セミナー
卒業後のキャリアを考え、実践的な準備をします。企業や自己の分析、学部での学びをもとに、社会でどのように活躍していくのかを考えます。

多文化社会学部 独自海外インターンシッププログラム (科目外)

将来、グローバルに活躍したい学生を対象に、本学部では、独自の海外インターンシッププログラムを用意しています。海外での生活に溶け込み、多様な国籍の人と一緒に働くことで、タフな人材の育成を目指しています。(学部独自の奨学金制度有。また、自主企画インターンシップを行うことで、単位認定も可能。)
※奨学金については今後変更の可能性あり

Student's Voice



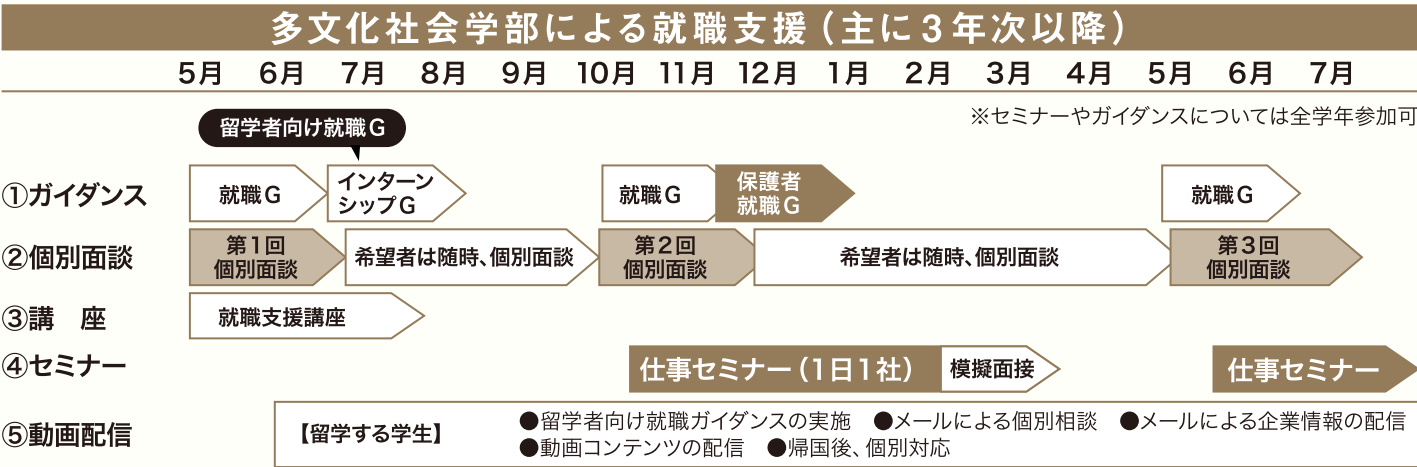
【グローバルキャリア入門】
多文化社会学部1 年

川野 葉月
福岡県立香椎高等学校 出身

多文化社会学部に入学し、憧れのキャンパスライフが始まったものの、将来(就職)のことを考えた時にどのような準備を進めていけばよいのか全く分かりませんでした。しかし、「グローバルキャリア入門」の授業を通して、資格の取得、留学、就職などの具体的な計画を立てられるようになり、明確な目標をもって学ぶことができるようになりました。日本企業と海外企業の仕組みの違いなどを学ぶことで、それまでとは違った側面から社会を見ることができるようになり、就職の際に必要な力を養うこともできるようになったと実感しています。また、海外インターンシップの情報を得ることで、海外で働くという選択肢が広がりました。

■就職支援システム

業界・企業研究、自己分析、応募書類の書き方からインターンシップ先の探し方など、就職に関する基礎知識を幅広く学ぶことができます。留学中の学生に対する独自の支援も提供しており、安心して勉学に励むことができます。



就職支援講座

就職に関する基礎知識を幅広く学ぶ講座です。
正規の授業科目と並行して実施しています。



学部独自で個別面談を年に複数回、実施するほか、中期・長期留学を経験する学生にも、キャリア形成の意識づけを目的に留学期間中もサポートします。1 年次から4 年次までキャリア形成のためのプログラムを途切れなく提供し、自己の強みから将来目標を設定するための支援体制を、学内のキャリア支援センターと連携しながら整備しています。

仕事セミナー (1 日1 社)

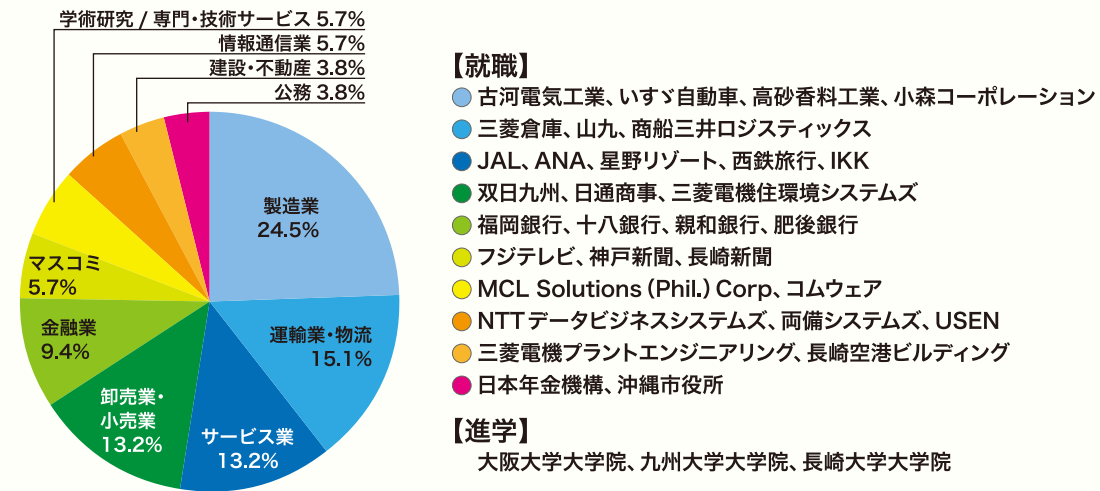
業界を代表する企業の人事担当者を長崎大学へ招き、
多文化社会学部生をメインターゲットとした特別説明会を開催しています。
(平成29 年度は約55 社が来訪)



仕事セミナー参加企業 (一部抜粋)
◎朝日新聞社 ◎伊藤忠商事 ◎住友商事 ◎帝人 ◎日本航空 ◎日産自動車
◎古河電工 ◎三井物産 ◎JR 九州 ◎JICA ◎JETRO ◎JTB グループ
◎NHK など多数 (五十音順)



🌟 平成30 年3 月卒業者の実績と就職満足度



Messages from Graduates



きっかけを見つけ
可能性を広げられる場所

秀 総一郎
(株) フジテレビジョン
多文化社会学科グローバル社会コース
※現 国際公共政策コース
在学中にマンハイム大学 (ドイツ)へ留学
平成30 年3 月卒業

みなさんにとって大学とはどのような場所ですか。
私はこの多文化社会学部で過ごした4 年間を通して、自らの可能性を広げることのできる場所だと感じています。
多文化社会学部には、人類学から国際政治学まで様々な専門分野を研究されている先生が在籍しており、それだけ幅広い分野の講義を受けることができます。また、留学や海外フィールドワーク実習など、他の学部では考えられないほど可能性に満ちた経験ができる学部であることも間違いありません。私は、1 年次に受けた講義がきっかけで NGO 団体に所属し、その経験がテレビの報道の現場で働きたいと思うようになったきっかけにもなっています。
卒業後はテレビ局の報道の現場で働くことになりましたが、多文化社会学部で学んだ幅広い経験を活かし、迅速かつ正確に、分かりやすくニュースを伝えることのできる報道記者を目指したいと思います。

Messages from Graduates



好奇心と行動力を培った
4 年間

牧 夕莉子
株式会社 長崎新聞社
多文化社会学科共生文化コース
平成30 年3 月卒業

共生文化コースに所属し、言語や文化について学びを深めました。
多文化社会学部では、1 年次・2 年次と様々な人文学の基礎的知識を得た後に自分の専門を決めるというカリキュラムが取られているため、たくさんの好奇心を育てることが出来ます。また、専門外でも興味をもった分野の先生や頑張っている多文化生と話をさせてもらうことで、カリキュラムの範囲外の学びも得ることが出来ました。
学校や学部のプログラムを利用し、3 回の短期留学をしました。3 年次の海外フィールドワーク実習では自らテーマを決め、報告論文を仕上げる経験をしました。自分の好奇心や興味と向き合い、調査し、言語化する作業は難しかったですが、様々な発見が得られるとても貴重な経験でした。
平成30 年度からは新聞社で働いておりますが、多文化社会学部で培った好奇心と行動力が活きています。

Messages from Graduates



自分の可能性を広げ
夢に向かって羽ばたく場所

真崎 奈津美
日本航空株式会社 (JAL)
多文化社会学科社会動態コース
平成30 年3 月卒業

多文化社会学部の最大の魅力は、視野を広げられる環境が整っているところだと思います。
1、2 年次には、政治、経済、文化、言語など様々な分野について学び、3 年次以降はその中から特に興味を持った学問についてさらに知識を深めていくことができます。授業を通して幅広い知識を得ることで、ひとつの側面だけに囚われず、物事を多角的に考えることができるようになりました。
また、多文化社会学部には留学、ボランティア、フィールドワークなど自主的に活動する学生が多く在籍しています。アクティブな友人たちに触発され、自らの様々なことに取り組んだ経験は私の宝物です。
卒業後は、幼い頃からの夢であった日本航空の CA として乗務することになりました。そこでは多文化社会学部で培った多角的な視点がとても活かされるように感じます。

🌟 取得できる資格・免許

多文化社会学部では学生が資格や免許取得に積極的に取り組める環境を整えています。

🌟 高等学校教諭一種免許状 (英語)

言語コミュニケーションコースに進んだ学生は、所定の単位を修得することで、卒業時に「高等学校教諭一種免許状 (英語)」を取得することができます。現在、文部科学省へ再課程認定を申請中です (文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります)。本コースの専門講義科目の多くが教員免許関連科目に指定されるよう申請しているため、言語学や異文化コミュニケーションなどに関する専門性を身につけながら、英語教員免許状を取得できるようになる予定です。
※ただし、3 年次以降に中期・長期留学を行う場合、4 年卒業での免許状の取得ができません。

🌟 日本語教員基礎資格

多文化社会学部で開講される日本語教員基礎資格科目を履修し、所定の単位数を取得した学生に対して「日本語教員基礎資格」を認定し、卒業時に日本語教員養成プログラムの修了証を交付します (ただし、平成31 年度以降の入学者については、文化庁の定める日本語教育人材の養成に関する目安が変更されたため、日本語教員養成プログラムの提供は未定となっています。)

多様な知識と経験を持つ教員との出会いも 多文化社会学部の大きな魅力

多文化社会学部には、海外の様々な文化に通じる日本人の教員と外国籍もしくは外国出身の教員が在籍しています。

様々な現場で実務経験のある教員も多く情報に奥行きがあり、実践的な知識が詰まった講義が展開されます。

これから多文化社会へと羽ばたいていく皆さんにとって多様なバックボーンを持つ教員たちとの出会いは

かけがえのない学びの機会となることでしょう。



教授
近江 美保
OMI, Miho
【国際人権論】

専門は国際法、国際人権法、フェミニズム国際法学。女性差別撤廃条約をはじめとする国際的な人権保障システムや、人権及びジェンダーと国際経済法の関係について研究。



教授
木村 直樹
KIMURA, Naoki
【地域史料論】

日本近世政治・外交史(対外関係史)について、長崎を起点に研究。島原の乱や、九州発近世屈指の大飢饉である寛永飢饉についても研究。



教授
首藤 明和
SHUTO, Toshikazu
【現代アジア社会論】

家族・コミュニティ・市民社会・民族・国家や、越境を伴う移動とネットワークに着目し、アジアの社会と文化の分析を通して共生社会のあり方を模索。



教授
中村 則弘
NAKAMURA, Norihiko
【国際社会学】

専門は、国際社会学、社会変動論。西欧社会知と対比しつつ、脱オリエンタリズムを軸にグローバル化時代のなかでアジアの諸価値体系のもつ意味を批判的に問い直す。



准教授
東 史彦
AZUMA, Fumihiko
【EU法】

国際経済法や国際人権法を題材に、超国家法としてのEU法と国内法・国際法との間の関係性について研究。



准教授
カトロニ ピノ
CUTRONE, Pino
【異文化間コミュニケーション】

専門は、異文化語用論、応用言語学/TESOL、社会言語学、談話分析。日本におけるEFL(外国語としての英語)の教授法を研究。



准教授
小松 悟
KOMATSU, Satoru
【開発経済学】

専門は開発経済学、環境経済学。アジアの途上国を対象として、国の経済開発と環境改善を両立させながら、持続可能な発展のためにはどのような政策が望ましいかを分析。



准教授
コンペル ラドミール
COMPEL, Radomir
【比較政治学】

専門は政治学。各国の政治について、体制、組織、政策、住民との関係および歴史的な背景を踏まえ、共通点及び相違点を研究。



教授
西原 俊明
NISHIHARA, Toshiaki
【コーパス言語学】

専門は、言語学、英語学、応用言語学。英語を中心に、言語に見られる普遍性・個性についてコーパス等を用いて研究。



教授
野上 建紀
NOGAMI, Takenori
【陶磁考古学】

専門は考古学。陶磁器を生産した窯、運んでいた船、消費していた都市の遺跡を調べて、「陶磁の道」とも呼ばれる「海のシルクロード」を研究。



教授
葉柳 和則
HAYANAGI, Kazunori
【文化表象論】

専門は文化社会学。主テーマとして多言語国家スイスのナショナル・アイデンティティ、副テーマとして近現代長崎の都市イメージを取り上げ、表象の政治という視点から研究。



教授
広瀬 訓
HIROSE, Satoshi
【国際機構論】

専門は国際機構論、軍縮、安全保障論。核軍縮交渉のプロセス、特に核不拡散条約(NPT)を中心とした多国間交渉における、人権の確保を保障するための法的枠組みの可能性を研究。



准教授
谷川 晋一
TANIGAWA, Shin-ichi
【対照言語学(日英)】

英語学、言語学、文法論が専門。英語と日本語を中心とした文法、特に語順の変化が意味解釈にどのような影響を与え、なぜそのような影響が生じるかという点に焦点を当てた研究。



准教授
波佐間 逸博
HAZAMA, Itsuhiro
【地域生態論】

アフリカの牧畜社会でフィールドワークを行い、暴力紛争や民族的病いの問題、他者や動物との共生とコミュニケーションについてサバンナの生活者自身の目線から研究。



准教授
原田 走一郎
HARADA, Souichirou
【日本語学】

日本語・琉球諸語の方言を研究。主に九州、沖縄県八重山のことばを対象に、それらが世界の言語のなかでどのような特徴を持つかを考察。



准教授
増田 研
MASUDA, Ken
【現代アフリカ社会論】

専門は社会人類学。アフリカ、アジア、日本の各地で社会の成り立ちと歴史を追いかけています。近年は、開発途上国における保健と高齢化の問題に取り組む。



教授
ボイケルス ハルメン
BEUKERS, Harmen
【オランダ文化論】

日蘭間で行われた知の交流の中で、特に19世紀の自然科学と医学を中心に研究。「本草学」の研究が当時の貿易にいかに関与したか、とりわけシーボルトとヘルツの活動に注目している。



教授
正本 忍
MASAMOTO, Shinobu
【社会史】

専門はフランス近代社会史、法制史。フランス北西部ノルマンディー地方を主なフィールドとして近世フランスの統治構造および社会構造の研究。



教授
門司 和彦
MOJI, Kazuhiko
【グローバルヘルス】

専門は人類生態学。環境と健康の関連を一体として捉えるエコヘルスの視点にたって、集団の健康と生存についての人類生態学的研究をアジアやアフリカの調査地で研究。



教授
森川 裕二
MORIKAWA, Yuji
【国際政治学】

国際政治の仕組みが、一体化する世界の中でどのように変化しているのか、国際政治の理論的な基礎を歴史的な背景や現実の社会の動きに照らして研究。



准教授
南 誠
MINAMI, Makoto
【トランスナショナリティ論】

専門は歴史社会学、国際社会学。中国鼎国者の調査や、満洲の歴史と記憶の国際比較を手がかりに、近代東アジアにおける境界文化の生成と溶解について研究。



准教授
見原 礼子
MIHARA, Reiko
【異文化理解教育】

専門は比較教育学、教育社会学。ヨーロッパを主なフィールドとして、多文化社会における移民の教育問題や子どもの虐待問題を研究。



助教
伍 嘉誠
NG, Ka Shing
【文化研究入門】

専門は宗教社会学、東アジア研究。宗教と社会変動についての質的・量的研究。主なテーマは東アジアにおける①宗教と社会福祉・社会運動、②政教関係、③新宗教の伝播と定着。



助教
トート ルディ
TOET, Rudy
【英語からたどる文化b】

専門は言語学で、日本語の文法を研究。現在は態(ヴォイス)、取り分け能動態(スル型動詞)と受動態(サレル型動詞)の使い分けを文法理論と統計学の両観点から考察。



教授
楊 曉安
YANG, Xiaohan
【対照言語学(日中)】

専門は応用言語学、実験音声学。実験音声学の手法を用いて、音声分析ソフトによる音声分析を通して、中日両言語の音声構造と文法・語義の関係について研究。



教授
連 清吉
REN, Seikichi
【中国思想史】

専門は中国思想、日本漢学。中国古代思想、とりわけ儒家と道家思想の在り方及びその現代的意義と、日本近代における中国学の受容・変容を研究。



教授
王 維
WANG, Wei
【異文化交流論】

長崎をはじめ、世界各地におけるチャイナタウン及び華人系社会・文化及び上位社会との交流史、音楽受容史、異文化観光について研究。



※[]内は教員の主な開講科目名です。
※科目名は変更となる可能性があります。



助教
ヌルガリエヴァ リヤイリヤ
NURGALIYEVA, Lyailya
【Understanding Japanese Culture and Society】

専門は国際関係、中央アジア研究であり、研究分野は、ソ連の崩壊後のカザフスタンの外交政策。その中でも、カザフスタンと日本、中国、ロシア又はEUとの関係に注目している。



助教
山下 龍
YAMASHITA, Noboru
【日蘭比較文化・歴史・言語】

①日本人を対象としたオランダ語教育、②日本人を対象とした英語教育、③日欧比較文化の研究(現在は主に日本茶道文化史の研究)、④日蘭交流史(現在は主に出島と医学の研究)



平成31年度入試情報

求める学生像

- 英語を主とする外国語の運用能力の基礎が充実している者
- 世界の多文化状況や異文化交流に興味、関心を持ち、グローバルな視点で自ら学ぼうとする意欲のある者
- 世界の多文化状況を客観的に捉え、見出された課題の解決に向けて論理的に思考できる者
- 世界規模の多種多様な考え方や価値観を尊重しつつ、それらについて批判的に思考できる者

一般入試 ※詳細は、11月下旬頃発表予定の「平成31年度一般入試学生募集要項」をご覧ください。

学力検査等の 区分・日程	コース名	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		2段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										
		教科	科目名等	教科等	科目名等		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	面接	配点合計
【前期】 2月25日 (月)	国際公共政策コース 社会動態コース 共生文化コース 言語コミュニケーションコース	国	国	外	コミュニケーション英語Ⅰ・ コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・ 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ	以下のA～Cのうち、いずれかを満たす者を第1段階選抜の合格者とする。 A：大学入試センター試験の外国語の得点率が80％以上の者（注3） B：次の①と②の両方を満たした者 ①大学入試センター試験の外国語の得点率が75％以上（注3） ②多文化社会学部が指定する大学入試センター試験の教科・科目のうち、外国語を除いた3教科3科目又は3教科4科目の得点を、多文化社会学部が定める前期日程の配点比率に換算した合計点100点満点中75点以上（75％以上の得点率） C：TOEFL iBT 61点以上、TOEIC L&R 730点以上、TOEIC L&R+TOEIC S&W 1000点以上、実用英語技能検定（英検）準1級以上、IELTS 5.5以上、GTEC（4技能）1140点以上、GTEC（3技能）700点以上、GTEC for STUDENTS（L&R&W）700点以上、GTEC for STUDENTS（L&R&W）+（S）850点以上、GTEC CBT 1040点以上又はTEAP 334点以上のいずれかのスコア・級を有する者（注4）	センター試験	50	25		25		200				300
	地歴	世B／日B／地理B	その他	批判的・論理的思考力テスト（総合問題）	個別学力検査							100	200			300	
	公民	現社／倫／政経／倫・政経			計		50	25		25		300	200				600
	数	数Ⅰ／数Ⅱ・数A／数Ⅲ／数Ⅳ・数B	外	①物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から2科目 ②物理／化学／生物／地学から1科目	外		コミュニケーション英語Ⅰ・ コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・ 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ	センター試験	50	25		25		200			
【後期】 3月12日 (火)	オランダ特別コース	理	①物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から2科目 ②物理／化学／生物／地学から1科目	その他	批判的・論理的思考力テスト（総合問題） 面接	個別学力検査						100	200		60	360	
		外	英／独／仏／中／韓から1科目			計	50	25		25		300	200		60	660	
	国際公共政策コース 社会動態コース 共生文化コース 言語コミュニケーションコース	国	【3教科3科目】 国	その他	小論文 面接	以下のA～Cのうち、いずれかを満たす者を第1段階選抜の合格者とする。 A：大学入試センター試験の外国語の得点率が85％以上の者（注3） B：次の①と②の両方を満たした者 ①大学入試センター試験の外国語の得点率が80％以上（注3） ②多文化社会学部が指定する大学入試センター試験の教科・科目のうち、外国語を除いた2教科2科目の得点を、多文化社会学部が定める後期日程の配点比率に換算した合計点100点満点中80点以上（80％以上の得点率） C：TOEFL iBT 61点以上、TOEIC L&R 730点以上、TOEIC L&R+TOEIC S&W 1000点以上、実用英語技能検定（英検）準1級以上、IELTS 5.5以上、GTEC（4技能）1140点以上、GTEC（3技能）700点以上、GTEC for STUDENTS（L&R&W）700点以上、GTEC for STUDENTS（L&R&W）+（S）850点以上、GTEC CBT 1040点以上又はTEAP 334点以上のいずれかのスコア・級を有する者（注4）	センター試験	50	50				200			300	
	地歴	世B／日B／地理B			個別学力検査									250	50	300	
【後期】 3月12日 (火)	オランダ特別コース	公民	現社／倫／政経／倫・政経			計	50	50				200		250	50	600	
		外	英／独／仏／中／韓から1科目	実施しない			実施しない										

(注1) 地歴・公民を2科目受験している場合は、第1解答科目を採用する。(注2) 数学及び理科を学部が指定している科目数より多く受験している場合は、高得点科目を採用する。ただし、理科については第2解答科目は採用しない。(注3) 大学入試センターが発表する大学入試センター試験(本試験)平均点(中間集計その2)における英語の平均点(筆記試験とリスニングテストの平均点の合計を200点満点に換算)が、115点を下回る場合は、大学入試センター試験の外国語科目の得点率(英語に限る)を見直すことがある。なお、得点率の見直しの有無及び見直し後の得点率は、平成31年1月25日頃に長崎大学ホームページ(入試情報サイト)で発表する。(注4) 外国語検定試験は、平成29年1月以降に受験した試験に限る。ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成29年1月以降に受験した試験とする。また、公式スコアを対象とし、TOEFL ITP、TOEIC IP及びGTEC(GTEC for STUDENTS(L&R&W)を含む。)(OFFICIAL SCOREの印字がないもの)は対象としない。

AO入試Ⅰ ※詳細については、7月上旬頃発表予定の「平成31年度AO入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日(第2次選考日) 平成30年10月13日(土)

自己推薦書、諸活動の記録、調査書等、個人面接及び筆記試験の結果を総合して合格者を決定します。

一般枠の出願には、TOEFL iBT 61点以上、TOEFL PBT500点以上、TOEFL ITP 500点以上、TOEFL Junior Comprehensive341点以上、TOEIC L&R730点以上、TOEIC L&R+TOEIC S&W1000点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS5.5以上、GTEC(4技能)1140点以上、GTEC(3技能)700点以上、GTEC for STUDENTS(L&R&W)700点以上、GTEC for STUDENTS(L&R&W)+(S)850点以上、GTEC CBT1040点以上又はTEAP 334点以上のいずれかのスコア・級を必要とする。(注1) 外国語検定試験は、平成28年9月以降に受験した試験に限る。ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成28年9月以降に受験した試験とする。(注2) 外国語検定試験は公式のスコアを対象(TOEFL ITPを除く。)とし、TOEFL Junior Comprehensive(公開テストでないもの)、TOEIC IP及びGTEC(GTEC for STUDENTS(L&R&W)を含む。)(OFFICIAL SCOREの印字がないもの)は対象としない。(注3) グローバル・国際バカロレア枠の出願要件については募集要項をご覧ください。

帰国子女入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成31年度帰国子女入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 平成30年11月14日(水)

提出された書類及び面接(日本語及び英語による)の成績の結果を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT 75点以上、TOEFL PBT537点以上、TOEIC L&R750点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上又はIELTS6.0以上のいずれかのスコア・級を必要とする。(注1) 外国語検定試験は、平成28年11月以降に受験した試験に限る。ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成28年11月以降に受験した試験とする。(注2) 外国語検定試験は公式スコアを対象とし、TOEFL ITP及びTOEIC IPは対象としない。

外国人留学生入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成31年度外国人留学生入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 平成31年1月30日(水)

「TOEFL 等の成績」、「日本留学試験(日本語、総合科目及び数学コース1)」、「面接(日本語及び英語による)」の得点を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT 61点以上、TOEFL PBT500点以上、TOEIC L&R730点以上又はIELTS5.5以上のいずれかのスコア・級を必要とする。(注1) 外国語検定試験は、平成28年11月以降に受験した試験に限る。(注2) 外国語検定試験は公式スコアを対象とし、TOEFL ITP及びTOEIC IPは対象としない。

入学者選抜の基本方針

多文化社会学部の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、論理的批判的思考力・判断力・表現力を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては英語を主とした外国語の運用能力と、多文化状況や異文化への興味・関心、学ぶことへの意欲も重視します。

募集人員

学部	学科等	入学定員	募集人員						
			一般入試(分離・分割方式)		AO入試Ⅰ		帰国子女入試	外国人留学生入試	合計
			前期日程	後期日程	一般枠	グローバル・国際バカロレア枠			
多文化社会学部	国際公共政策コース 社会動態コース 共生文化コース 言語コミュニケーションコース オランダ特別コース	100	68	10	8	4	若干人	若干人	90
			7		2	1	若干人	若干人	10
	計	100	75	10	10	5	若干人	若干人	100

批判的・論理的思考力テスト(総合問題)の導入

一般入試(前期日程)の「批判的・論理的思考力テスト(総合問題)」では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、批判的・論理的思考力を評価しています。グローバル化する社会でみなさんが直面する出来事や課題は、たとえ個人的な事項、ローカルな問題であろうとも、どこかでグローバルな要因とつながっています。そして、こうした出来事や課題の解決のためには、「唯一の正解」を見出すことができない場合がほとんどです。こうした「唯一の正解」のない問いに答えようとする上で重要となるのは、身につけた知識や技法を活用して、唯一の正解など存在しない出来事や課題に対してできる限り説得力のある解釈や解答を導き出す力です。批判的・論理的思考力テストでは、文章、グラフ、地図、表などを読み解き、そこから論を展開していくことになります。そのためには、以下のような力と知識を総動員することが必要となります。

- 国語の授業で身に付ける読解力、思考力、文章力
- 地歴・公民の授業で身に付ける歴史の流れ・因果関係
- 「この地域はこんな地域」という地理的イメージ力
- 現代社会の仕組みや他者に対する倫理
- 数学や理科の学習を通して養われる数理的に物事を判断する力や論理的に推論する力

過去の入試問題及び出題例・解答例・採点の観点については、下記URLよりPDFをダウンロードできます。
http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/exam/data.html

大阪・福岡
学外試験場のご案内(予定)
[一般入試(前期日程)]

※オランダ特別コースについては長崎(文教キャンパス)試験場のみの受験となります。

